

令和6年10月1日

保護者の皆様へ

大阪産業大学附属高等学校

校長 平岡 伸一郎

2023年度 アンケート結果のご報告

秋涼の候、保護者の皆様にはますますご清祥のことと存じます。平素は本校教育活動に深いご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。

さて、本校では生徒に「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」「学校生活についてのアンケート」とともに、授業科目ごとの「授業アンケート」を実施しています。2023年度のアンケート結果を踏まえて、その分析と今後の課題を明らかにします。なお、アンケートは、3学期に実施しており、高校3年生は卒業式を迎える直前で登校していないので、1年生・2年生を対象にしています。

1. 「授業アンケート」の結果について

「授業アンケート」の結果は別表の通りです。アンケート結果については、各教科担当の教員に担当クラスごとに結果を戻し、自身の授業内容についての「振り返り」の材料として、次年度の授業内容の改善に役立てるようにしています。

以下、「授業アンケート」への回答結果についての感想です。

Q3「授業は分かりやすいですか」の質問に約9割の生徒が肯定的な回答をしています。

一方、Q6「授業は参加しやすいものですか」の質問にも9割以上の生徒が肯定的な回答をしています。教員が授業に参加しやすい雰囲気を作ることにより、生徒の授業への参加意識・集中力が高まり、そのことがひいては授業内容の理解の深さにつながっていくので、Q3の回答結果は、教員の普段の授業の雰囲気作りの結果が出たといえます。生徒たちもそれに応えるように〈授業を受ける態度についての自己評価〉のQ8「授業に積極的に参加している」で8割以上が肯定的な回答をしています。

教員が分かりやすい授業をするのは、自分の教科を理解してくれ、できれば興味・関心を持ってくれることを願うからです。それで言えばQ7「授業を受けて、この教科・科目について興味が深まったと思いますか」、Q8「授業を受けて、学力がついたと思いますか」、Q12「この教科の内容は理解できますか」の質問に約8割の生徒が肯定的な回答をしてくれたのは期待以上の結果です。これらの好結果を肯定的な回答が約5割にとどまるQ11「この教科の勉強を日常していますか」や、〈学習についての自己評価〉のQ12「家庭学習に進んで取り組んでいる」にどう繋げていくかが課題となります。

Q4「授業は工夫されていますか」の質問に約9割の生徒が肯定的な回答をしており、Q3の質問への回答とほぼ同じ数字となっています。このことから教員への授業への工夫が授業の分かりやすさにつながっているといえそうです。〈学校生活についてのアンケート〉Q25「この学校の教員は、プロジェクターなどICT機器を積極的に活用している」の質問に肯定的な回答が91%となっていますが、ICT機器は生徒の視覚への訴えに優れていますので、機器の活用も生徒の理解力の助けになっていると思われます。

Q9「授業のルールを守るように先生は注意していますか」、Q10「先生は授業時間を守っていますか」の両質問に95%の生徒が肯定的な回答をしています。授業には緊張と弛緩のバランスが大切で、生徒は楽しいながらも緊張感のある授業を望んでいます。先ほどのQ6で見たように教員は生徒がリラックスできる雰囲気作りをする一方で、Q9の回答でわかるとおり緊張感、規律を持たせようとしています。もちろん、それにはQ10のように自らを律する姿勢を生徒に示すことが必要になってきます。生徒も〈授業を受ける態度についての自己評価〉Q9「制服をきちんと着用し、姿勢を正して授業を受けている」の質問に95%以上の生徒が肯定的な回答をしているように、教員の自ら襟を正す姿勢が生徒に影響を与えているといえそうです。

3. 「学校生活についてのアンケート」の結果について

本校生徒の特長である挨拶をよくすることや学校生活に積極的に取り組むことについては、Q14「この学校の生徒は、挨拶をきちんとしている」やQ15「この学校の生徒は、学校生活に積極的に取り組んでいる」への質問に対する回答が9割と肯定的な数字が高くなっています。Q14については、進学系列の部活動への参加率が高いことから、クラブで挨拶や礼節について指導される機会も多いので、特進より高い傾向が出ていると考えられます。

日常生活の送り方を示すQ16の「この学校の生徒は、遅刻をしないように努力をしている」、校則・社会規範を守れているかを示すQ17「この学校の生徒は、校則を守っている」Q18「この学校の生徒は、自転車や歩行のルールを守っている」などの質問については8割近くが肯定的な回答をしていますが、まだまだ数字を上げられるよう粘り強く指導していきたいと思います。

Q20、Q22～Q24については、生徒に対する学校の取り組みについて質問しています。いずれの質問に対しても生徒たちは学校の取り組みに対して、肯定的な回答が90～95%となっており高く評価をしているのがうかがえます。Q20「この学校は、いじめを許さないようにしっかり取り組んでいる」のいじめへの取り組みについては、人権推進部が年5回いじめ実態調査をクラス・クラブを対象に行い、Q22「この学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる」、Q24「この学校の先生は、生徒指導にしっかりと取り組んでいる」については、進路指導部、生徒指導部から担任を通じて生徒に発信する機会が多いのが高い評価につながったと思われます。生徒指導については、本校は各種推薦制度を利用して進学する生徒が圧倒的に多いので、普段から担任が生徒の成績や出席状況、提出物の提出状況などについて細かく指導しているのも高い評価につながったと思われます。

本校の特長としては他にも、部活動と学業の両立を掲げていますが、Q28「クラブ活動と学業を両立させるよう取り組んでいる」の質問に89%の生徒が肯定的な回答をしており、それを裏付ける数字となっています。

以上、生徒への各種アンケート結果を概観しました。生徒のアンケート結果からは教員の授業への取り組み、学校運営の取り組みに対して、生徒は一定の評価をしているのがうかがえました。生徒たちも授業や学校生活に前向きに取り組んでおり、本校生の特長である挨拶をきちんとする、学校生活に積極的に取り組む、クラブ活動と学業を両立させるよう取り組む、それらに対しては自己評価の高いのが明らかになりました。

一方で、本校が目指す生徒の「自主性を尊重する」という点では、学習面で物足りない結果となりました。

た。今の生徒たちは指示されたことはきっちりやるので、まずは教員が生徒たちに学習する習慣を身に付けさせ、その後は生徒たちが自発的に学習に取り組んでいくように誘導することが必要と感じました。